

簿記 2 級

工業簿記テキスト



目次

第1章 工業簿記の基礎・・・1

1. 工業簿記とは 2
2. 原価計算とは 3
3. 原価計算の流れ 5

第2章 材料費の処理・・・7

1. 材料費の分類 8
2. 材料購入時の処理 9
3. 材料消費時の処理 10
4. 消費単価の計算 11
5. 消費数量の計算 13
6. 棚卸減耗費 15
7. 予定消費単価 16

第3章 労務費の処理・・・21

1. 労務費の分類 22
2. 賃金・給料支払時の処理 23
3. 賃金・給料の消費額の計算 24
4. 労務費の処理 25
5. 予定賃率 26

第4章 経費の処理・・・30

1. 経費の分類 31
2. 経費を消費したときの処理 32

第5章 個別原価計算・・・35

1. 個別原価計算とは 36
2. 製造直接費の賦課 37
3. 製造間接費の配賦 38
4. 原価計算表と元帳の記入 39
5. 製造間接費の予定配賦 41

第6章 部門別個別原価計算 44

1. 部門別計算とは 45
2. 部門個別費と部門共通費の集計 46
3. 補助部門費の製造部門への配賦 48
4. 製造部門費の配賦 52
5. 製造部門費の予定配賦 54

第7章 総合原価計算①・・・58

1. 総合原価計算とは 59
2. 仕掛品の計算①
月初仕掛品がない場合 60
3. 仕掛品の計算②
月初仕掛品がある場合 62

第8章 総合原価計算②・・・67

1. 工程別総合原価計算 68
2. 組別総合原価計算 72
3. 等級別総合原価計算 75

第9章 総合原価計算③・・・78

1. 仕損・減損とは 79
2. 仕損品の処理① 80
3. 仕損品の処理② 83
4. 材料の追加投入① 88
5. 材料の追加投入② 90
6. 材料の追加投入③ 92

第10章 工業簿記の財務諸表 94

1. 製造原価報告書 95
2. 損益計算書と貸借対照表 97
3. 原価差異がある場合の財務諸表 98

第11章 本社工場会計・・・100

1. 本社工場会計とは 101
2. 本社と工場の仕訳 102

第12章 標準原価計算・・・105

1. 標準原価計算とは 106
2. 原価標準の設定 107
3. 標準原価の計算 108
4. 実際原価の計算と原価差異の把握 110
5. 原価差異の分析① 材料費 111
6. 原価差異の分析② 労務費 113
7. 原価差異の分析③ 製造間接費 115
8. 勘定記入方法 117

第13章 直接原価計算 120

1. 直接原価計算とは 121
2. 直接原価計算の損益計算書 124
3. 固定費調整 127
4. C V P分析 129
5. 固変分解 137

第1章 工業簿記の基礎

～学習内容～

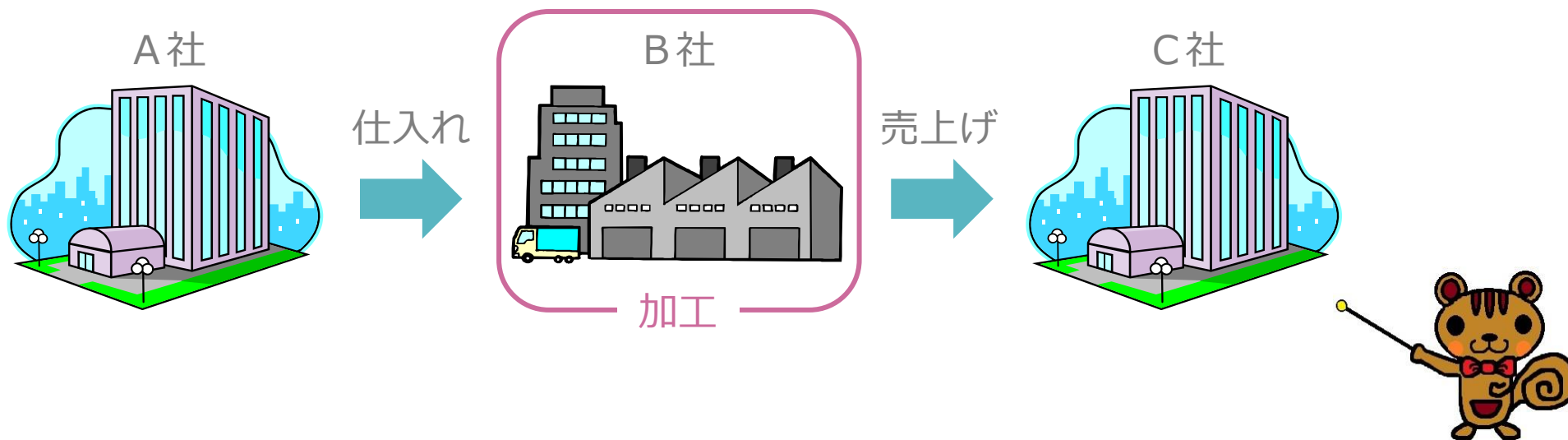
1. 工業簿記とは
2. 原価計算とは
3. 原価計算の流れ



第1節 工業簿記とは

商業簿記	工業簿記
・仕入れた商品をそのままの形で売る商品売買業を対象とした簿記	・仕入れた材料を加工して売る製造業を対象とした簿記

～製造業のイメージ～



第2節 原価計算とは

1. 原価計算とは

- ・製品の製造にかかった費用（製造原価）を計算すること

2. 製造原価の分類

形態別分類	製品との関連による分類
<ul style="list-style-type: none">・材料費、労務費、経費に分類 ⇒材料費：モノにかかった金額 労務費：ヒトにかかった金額 経費：上記以外にかかった金額	<ul style="list-style-type: none">・製造直接費、製造間接費に分類 ⇒製造直接費：ある製品を作るためにいくらかかったかが明らかな原価 製造間接費：ある製品を作るためにいくらかかったかが明らかでない原価

ポイント

～製造原価の分類～

		形態別分類		
		材料費	労務費	経費
製品との関連 による分類	製造直接費	直接材料費	直接労務費	直接経費
	製造間接費	間接材料費	間接労務費	間接経費

3. 原価計算期間

- ・原価計算を行う期間（原価計算期間）⇒ 月初から月末までの1か月

4. 仕掛品とは

- ・製造途中の未完成品 ⇒ 『仕掛品』で処理



第3節 原価計算の流れ

ステップ1 費目別計算

- ・材料費、労務費、経費の計算
- ⇒材料、賃金、経費などの勘定を用いる
- ⇒製造直接費は仕掛品勘定に、製造間接費は製造間接費勘定に振り替える



ステップ2 製造間接費の配賦

- ・製造間接費勘定から一定の基準で仕掛品勘定に振り替える

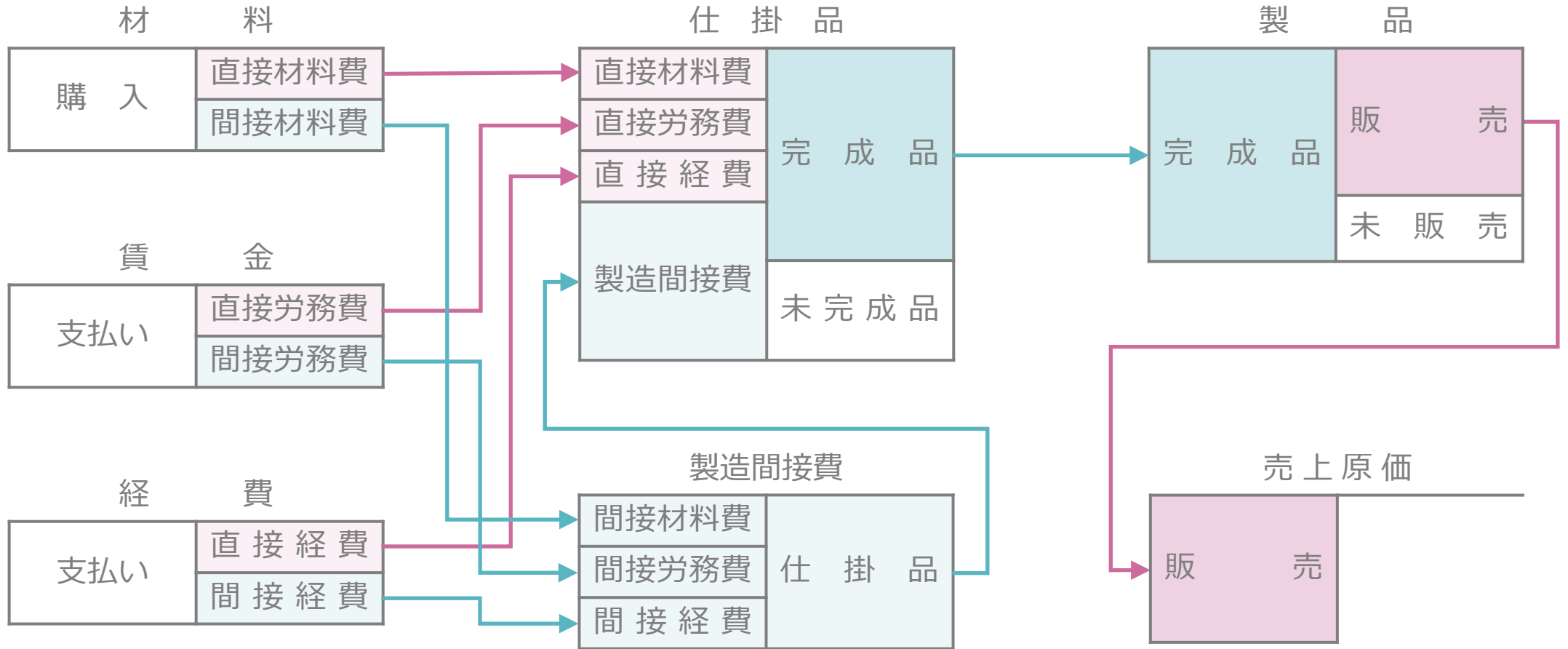


ステップ3 製品原価の計算

- ・製品完成後、仕掛品勘定から製品勘定に振り替える
- ・製品を売り上げたら製品勘定から売上原価勘定に振り替える

ステップ1 費目別計算

ステップ3 製品原価の計算



ステップ2 製造間接費の配賦

この流れを意識しながら
学習しようね



第2章 材料費の処理

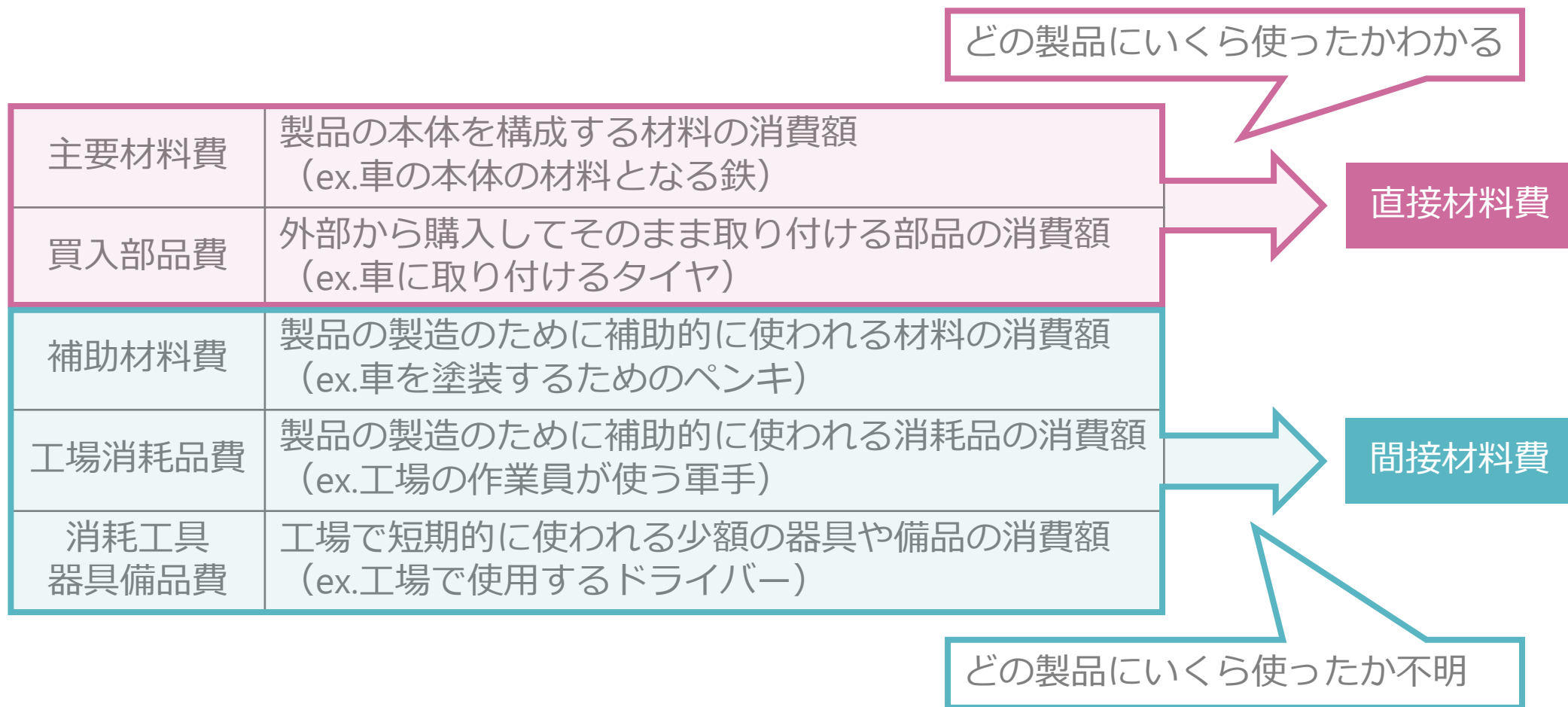
～学習内容～

1. 材料費の分類
2. 材料購入時の処理
3. 材料消費時の処理
4. 消費単価の計算
5. 消費数量の計算
6. 棚卸減耗費
7. 予定消費単価



第1節 材料費の分類

・材料費・・・購入した材料のうち消費（使用）した金額



第2節 材料購入時の処理

1. 材料を購入したときの仕訳

材料の購入原価 = 購入代価 + 付随費用

材料副費という

【取引例】

木材10枚を@ ¥10で購入し、代金は掛けとした。なお、引取運賃 ¥10は現金で支払った。

@ ¥10 × 10枚 + ¥10 = ¥110

材	料	110	買 掛 金	100
			現 金	10

材 料

¥110



2. 材料を返品したときの仕訳

【取引例】

先日掛けで購入した木材のうち、¥10分を返品した。

・ 返品した分の仕入れを取り消す
⇒ 仕入の減額として処理

買 掛 金	10	材	料	10
-------	----	---	---	----

第3節 材料消費時の処理

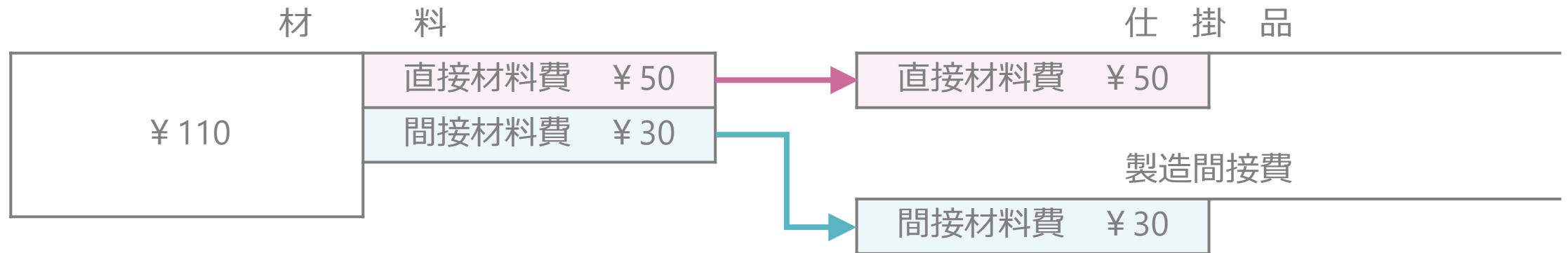
材料を消費したときの仕訳

【取引例】

材料 ¥110のうち、¥50は直接材料として、¥30は間接材料として消費した。

- 直接材料費 ⇒ 仕掛品勘定へ振替え
- 間接材料費 ⇒ 製造間接費勘定へ振替え

仕掛品	50	材料	80
製造間接費	30		



第4節 消費単価の計算

$$\text{材料費} = \text{消費単価} \times \text{消費数量}$$

1. 先入先出法

- 先に購入したもののから先に消費したと仮定して消費単価を計算する方法

商業簿記でも学習したね



【取引例】

当月、直接材料として鉄60gを消費した。なお、月初に30g (@ ¥10) あり、当月に70g (@ ¥20) を購入している。

材 料	
月初在庫 ¥ 300 (@ ¥10×30g)	→ 当月消費 ¥ 300 (@ ¥10×30g)
当月購入 ¥ 1,400 (@ ¥20×70g)	→ 当月消費 ¥ 600 (@ ¥20×30g)
	→ 月末在庫 ¥ 800 (@ ¥20×40g)

①まず月初在庫 (30g) を消費

②足りない分 (60g - 30g = 30g) は当月購入分を消費したと仮定

⇒材料費 : @ ¥10×30g + @ ¥20×30g = ¥900

2. 総平均法

商業簿記でも学習したね



- ・一定期間に購入したものの平均単価を計算し、これを消費単価とする方法

【取引例】

当月、直接材料として鉄60gを消費した。なお、月初に30g (@ ¥ 10) あり、当月に70g (@ ¥ 20) を購入している。

材		料	
月初在庫 ¥ 300 (@ ¥ 10×30g)		当月消費 ¥ 1,020 (@ ¥ 17×60g)	
当月購入 ¥ 1,400 (@ ¥ 20×70g)		月末在庫 ¥ 680 (@ ¥ 17×40g)	

$$\text{平均単価} : \frac{\text{@ ¥ 10} \times 30\text{g} + \text{@ ¥ 20} \times 70\text{g}}{30\text{g} + 70\text{g}} = \text{@ ¥ 17}$$

$$\text{材料費} : \text{@ ¥ 17} \times 60\text{g} = \text{¥ 1,020}$$

第5節 消費数量の計算

$$\text{材料費} = \text{消費単価} \times \text{消費数量}$$

1. 継続記録法

- ・材料の購入や消費の都度記入し、払出数量欄の数量を消費数量とする方法

いちいち記録するのはメンドウだけど
月末に棚卸しを行うことで
棚卸減耗を把握できるよ



材 料 元 帳
鉄

×1年		摘 要	受 入			払 出			残 高			
月	日		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
6	1	前月繰越	30	10	300				30	10	300	
	5	入 庫	70	20	1,400				}	30	10	300
										70	20	1,400
	10	出 庫				}	30	10	300			
							30	20	600	40	20	800

$$\text{消費数量} = \text{払出数量欄の数量}$$

記入の手間は少ないけど
棚卸減耗を把握できないよ

2. 棚卸計算法

- 材料を購入したときだけ記入し、購入数量と棚卸数量の差で消費数量を計算する方法



材 料 元 帳
鉄

×1年		摘 要	受 入			払 出			残 高		
月	日		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1	前月繰越	30	10	300						
	5	入 庫	70	20	1,400						

購入（受入）のみ記入

消費（払出）と残高は記入しない

$$\text{消費数量} = \text{月初数量} + \text{当月購入数量} - \text{月末実地棚卸数量}$$

第6節 棚卸減耗費

商業簿記でも登場したね



- ・ 棚卸減耗・・・帳簿棚卸数量と実地棚卸数量との差

棚卸減耗が生じたときの仕訳

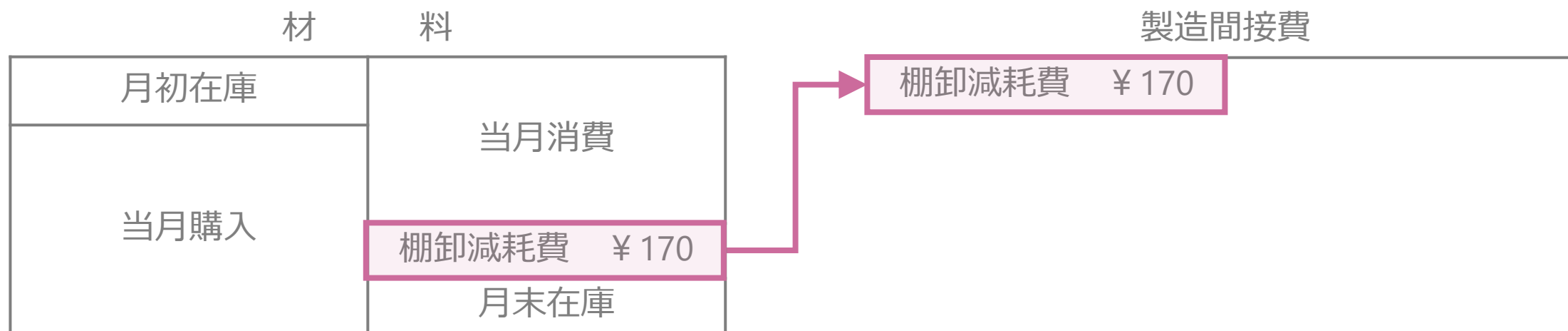
棚卸減耗費 = 帳簿有高 - 実際有高 ⇒ 製造間接費で処理

【取引例】

月末における材料の帳簿棚卸数量は40g (@ ¥ 17) であるが、実地棚卸数量は30gであった。

$$(40g - 30g) \times @ ¥ 17 = ¥ 170$$

製造間接費	170	材	料	170
-------	-----	---	---	-----



第7節 予定消費単価

- ・ 実際の購入単価を用いて材料費を計算した場合（第6節までの処理）のデメリットは2つ
⇒①購入時期が異なると材料費が異なることがある
②総平均法で計算すると材料費の計算が遅れる
- ・ あらかじめ決めておいた単価（**予定消費単価**）で材料費を計算

1. 材料を消費したときの処理

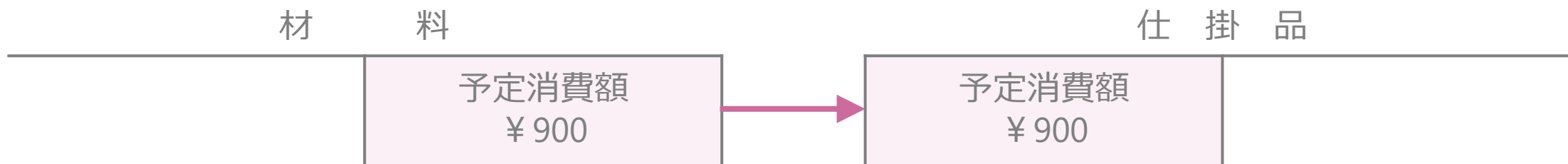
材料の予定消費額 = 予定消費単価 × 実際消費数量

【取引例】

当月、直接材料として鉄60gを消費した。なお、予定消費単価は@ ¥15である。

@ ¥15 × 60g = ¥900

仕	掛	品	900	材	料	900
---	---	---	-----	---	---	-----



2. 月末の処理

- ・ 材料消費額が実際消費額になるように調整 ⇒ 材料消費価格差異で処理
- ・ 予定消費額 < 実際消費額の場合・・・不利差異（会社にとって不利な状態）
- ・ 予定消費額 > 実際消費額の場合・・・有利差異（会社にとって有利な状態）

① 予定消費額 < 実際消費額の場合

【取引例】

当月の直接材料費の実際消費額は ¥ 1,020 (@ ¥ 17×60g) であった。なお、予定消費額は ¥ 900 (@ ¥ 15×60g) で計算している。

$$¥ 900 - ¥ 1,020 = \triangle ¥ 120 \text{ (不利差異)}$$

材料消費価格差異	120	材	料	120
----------	-----	---	---	-----

材料消費価格差異勘定の借方に記入⇒借方差異ともいう

材 料		材料消費価格差異
実際消費額 ¥ 1,020	予定消費額 ¥ 900	差異 ¥ 120
	差異 ¥ 120	

② 予定消費額 > 実際消費額の場合

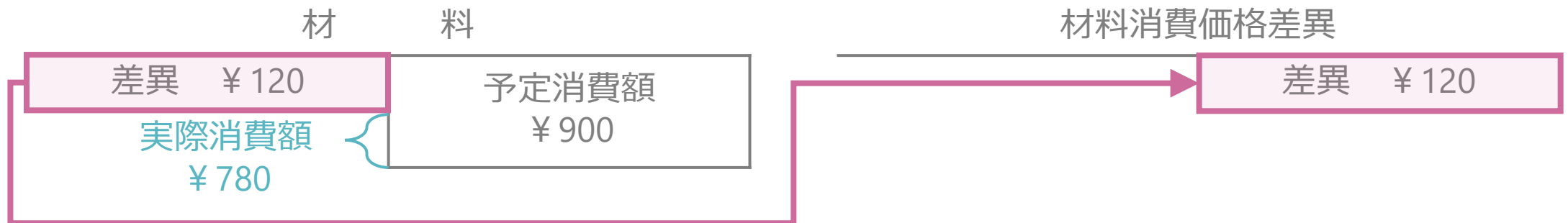
【取引例】

当月の直接材料費の実際消費額は ¥780 (@ ¥13×60g) であった。なお、予定消費額は ¥900 (@ ¥15×60g) で計算している。

¥900 - ¥780 = ¥120 (有利差異)

材	料	120	材料消費価格差異	120
---	---	-----	----------	-----

材料消費価格差異勘定の借方に記入 ⇒ 貸方差異ともいう



ポイント

予定消費額から実際消費額を差し引く！
⇒ マイナスになったら不利差異
プラスになったら有利差異



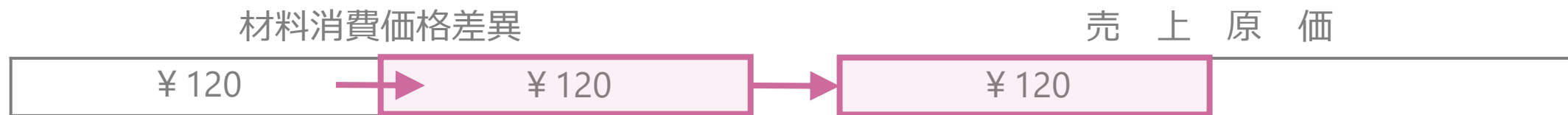
3. 決算日の処理

- 材料消費価格差異を売上原価に振り替える

①材料消費価格差異が借方残高の場合

【取引例】
材料消費価格差異 ¥ 120（借方）を売上原価勘定に振り替える。

売上原価	120	材料消費価格差異	120
------	-----	----------	-----



②材料消費価格差異が貸方残高の場合

【取引例】
材料消費価格差異 ¥ 120（貸方）を売上原価勘定に振り替える。

材料消費価格差異	120	売上原価	120
----------	-----	------	-----



【参考】材料副費

- ・材料の購入から出庫までにかかる付随費用

外部材料副費	内部材料副費
購入から倉庫に入庫するまでにかかるもの (ex.引取運賃など)	入庫してから出庫するまでにかかるもの (ex.検収費や保管費など)

材料副費の予定計算

- ・材料副費の予定計算・・・**予定配賦率**を使って材料副費を計算すること

【取引例】

材料 ¥ 1,000 を購入し、代金は掛けとした。なお、材料副費については購入代価の 1 % を予定配賦する。

材	料	1,010	買	掛	金	1,000	
			材	料	副	費	10

材料副費： ¥ 1,000 × 1 % = ¥ 10

